【訂正箇所】

第４回新庁舎整備事業検証委員会（令和８年１１月６日開催）
資料３「各整備手法における災害リスクへの対応の比較検証」１８ページ

資料３　各整備手法における災害リスクへの対応の比較検証

20261106
第4回 新庁舎整備事業検証委員会

３）各パターンの評価（案）まとめ

現庁舎の利用を続けるパターン（①～④）は、災害対応や行政サービスが遅延し、被災者の生活再建の遅れや市民生活全体への影響が拡大・長期化するおそれがある。

	評価の視点、評価項目	現庁舎の利用を続け、将来建替える						今建替える			
		パターン① 耐震改修		パターン② 減築		パターン③ 災対本部整備		パターン④ 継続使用		パターン⑤ 新庁舎分棟		パターン⑥ 新庁舎合築	
災害応急業務	1 本部機能を発災直後に 設置し、対応を開始できるか	○		○		○		×		○		○	
	2 各局対策部を発災直後に設置し、対応を開始できるか	▲		▲		×		×		○		○	
	3 本部機能と各局対策部が連携して活動ができ るか	▲		▲		○		×		○		○	
	4 本部機能と関係機関がが円滑に連携できるか	○	▲	○	▲	×	×	×	×	○	○	○	○
	5 災害応急業務を分散せずに実施することができるか	▲		▲		×		×		○		○	
	6 支援窓口を速やかに設置し、必要な支援を提供できるか	▲		▲		×		×		○		○	
継続しなければならない通常業務	7 各局 が発災直後から対応できるか	▲		▲		×		×		○		○	
	8 平時と同様の行政サービス水準を確保できるか	▲	▲	▲	▲	×	×	×	×	○	○	○	○
	9 窓口の分散を抑え、市民負担を軽減できるか	▲		▲		×		×		○		○	

18

正

パターン③ 災対本部整備	
○	
×	
×	
○	×
×	
×	